

# 湧水

三島駅南口開発

三島市の約30年に及ぶ懸案事項、三島駅南口の再開発が大きな局面を迎えている。東街区(約1・3秒)は高層マンション計画を軸に事業協力者の公募を年内に行う方針。西街区(約0・55秒)は再開発を断念し、市地開発公社所有の0・35秒をホテル事業者に売却する計画が進む。実現すれば、2020年の東京五輪開催時に南口の景色は様変わりする。市の今後行く末を左右する案件だけに、市民を巻き込

んだ議論を期待したい。市民生活に大きく関わる事業だが、市民の関心は高いとはいえない。13日夜に開催された地元NPO主催の「南口を語る会」は、市職員や市議など関係者の姿が多く、空席も目立った。豊岡武士市長自ら市の計画を説明し、地元の若者団体や市民グループが独自案を発表する場としては寂しい光景だった。

## 市民を巻き込んだ議論を

騰、10〜15年後に迫る市庁舎立て替え問題など、理由はさまざま。そして、市民の意見を聴く機会を作るべきという主張は共通する。

ただ、市は決して秘密主義というわけではなく、市民公開の市議会全員協議会を開いたほか、市内4地区で行った地域行政懇談会で南口開発を取り上げた。また、各種団体への説明会を順次開催し、今後は市民向けに説明の場を設ける。

試されているのは、三島の市民力ではないか。石油化学コンビナートの反対運動に始まり、どぶ川だった源兵衛川の環境再生など、市民が活発にまちづくりに参画する姿勢こそ「三島らしさ」と考える。語る会で発表した「三島の30年後を語り合う若者の会」の案は独自色があり、傾聴に値するものだった。三島にはこうした草の根の市民グループが数多くある。そうした団体がこの問題に積極的に関わっていくことで、市民の関心はおのずと高まるのではないかと。南口がどんな形に生まれ変わるにしろ、そのプロセスは市民が誇れるものであってほしい。

(三島支局・市川雄一)